

平成 19 年度（2007 年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）
（日本語文化専攻 論述試験）

（文化系講座）

[日本語文化学講座]・[比較日本文化学講座]

問題（1～6）から、4 題を選び、日本語で解答しなさい。

1. 1940 年代生まれのある評論家が、2004 年に「近代文学の終わり」という論文の中で、日本において「文学」が終焉を迎えていると論じた。この中でどのような議論が展開されていると想像するか述べ、それに関して自分の意見を述べよ。

2. 食べ物・服装・音楽・映画俳優・政治家など、人気のあるもの、人気のないものは国によって異なる。何故そうなのか、その理由を文化論的に論ぜよ。

3. いかなる状況においてであれ、具体的な経験は、それぞれが個別で一回的なものに過ぎない。ところが、こと異文化体験に限っては、往々にして、個人的体験がそのまますぐに定式化され一般化される傾向がある。このようなことから生じる得失（プラス面とマイナス面）について、例を挙げて分かりやすく説明せよ。

4. ある社会の文化を考察する際に、自国からよりも外国からの方がより客観的に見えるという見解がある。これについて意見を述べよ。

5. 日本を一度も訪れることのなかったマルコ・ポロ（1254-1324）は、『東方見聞録』（平凡社東洋文庫、愛宕松男訳注、1971 年）の中で、日本について次のように述べている。

この一事だけは是非とも知っておいてもらいたいからお話するが、チパング島の偶像教徒は、自分たちの仲間でない人間を捕虜にした場合、もしその捕虜が身代金を支払えなければ、彼等はその友人・親戚のすべてに

「どうかおいで下さい。わが家でいっしょに会食しましょう」

と招待状を発し、かの捕虜を殺して - むろんそれを料理してであるが - 皆でその肉を会食する。彼等は人肉がどの肉にもましてうまいと考えているのである。

このような資料から何を読み取ることができるか、文化研究（比較文化的視点も含む）の立場から述べよ。

6．ある研究者が「通訳者の資質と能力」について『異文化コミュニケーション』（有斐閣選書、古田暁監修、1987 年）の中で次のように述べている。

通訳者は次のような資質と能力が必要である。 最低二言語に精通していること。 各言語の文化的背景を十分理解していること。 コミュニケーションのプロセスについて理解していること。 専門知識、背景知識に詳しいこと。 訳出力、表現力に優れていること。 強靱な精神力と柔軟性（集中力、判断力、協調性など）があること。

このような意見についてどのように考えるのか、異文化コミュニケーションの観点から述べよ。

平成 19 年度（2007 年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）
（日本言語文化専攻 論述試験）

（言語系講座）

[応用言語学講座] [日本語教育学講座] [現代日本語学講座] [日本語教育方法論講座]

下記の問題（7～18）から 4 題を選び、日本語で解答しなさい。
問題の選択は志望講座により異なるので、次の指示に従うこと。

（1）第 1 志望と第 2 志望の講座がある場合

第 1 志望講座の問題から少なくとも 2 題選択すること。
第 2 志望講座の問題から少なくとも 1 題選択すること。
残りの 1 題は自由に選択してよい。

（2）第 1 志望だけで、第 2 志望の講座がない場合

第 1 志望講座の問題をすべて（3 題）解答すること。
残りの 1 題は自由に選択してよい。

【応用言語学講座の問題】7・8・9

7. 英語の人称代名詞では1、2、3人称という区別が行われている。だが、この3つは個々の表現において常に対等に扱われているわけではなく、それぞれの人称の現れ方には構文や解釈に関する制約がある。英語の例文を挙げて、人称の現れ方に関する制約を具体的に述べよ。

8. 下記対話文の下線部の機能について論ぜよ。

A: 「田中さんは明日来るでしょうか」

B: 「さあ、知りませんが」

9. 下記の用語(1)(2)(3)(4)を説明せよ。

(1) Cross-sectional study (横断的研究)

(2) Interval scales (間隔尺度)

(3) Central tendency (中心化傾向)

(4) Sampling error (抽出誤差)

【日本語教育学講座の問題】10・11・12

10. 下記の例文で、助詞「に」を使った文は自然な文であるのに対し、助詞「で」を使った文は不自然な文もしくは許容できない文であるのは何故か。また、「～は～で住んでいる」、「～で～がある」が許容される場合があるとすれば、それはどういう場合であるか説明せよ。

(1a) Aさんは名古屋に住んでいる。

(1b) Aさんは名古屋で住んでいる。

(2a) 机の上に本がある。

(2b) 机の上で本がある。

11. 下記の文章を読んで、意見を述べ、日本語教育の観点から論ぜよ。

また、命令は意図的に実行できる行為を命じるものでないと意味がないように思われる。たとえば「食べ物を消化しろ」「体温を三五度に下げろ」「ハゲるな」「身長を伸ばせ」「IQを上げろ」「歳をとるな」「痛みを感じるな」などがそうだ。これらは、本人の意図によって左右されることではないから、命令することには意味がない。

しかし、この見地からすると、奇妙に思われる命令文がある。たとえば、喜怒哀楽や愛憎などの心の動きは、通常、自分の意志ではどうにもならないものとされている。こういうことを命令するのは意味がないはずなのに、実際には「ああいう男を好きになるな」「私を愛してくれ」「がっかりするな」「喜べ」「自信をもて」などと命令することがある。こういう命令文にどんな意味があるのか不可解である。

(土屋賢二『紅茶を注文する方法』文春文庫)

12. 第二言語の学習における「動機づけ」を定義・分類し、「動機づけ」がどのような役割を果たすか説明せよ。さらに、教室における第二言語学習がその「動機づけ」に影響を与えることがあるが、教師はどのようなことに留意する必要があるか述べよ。

【現代日本語学講座の問題】13・14・15

13. 人間による事物や事態の捉え方 (construal) が、言語表現の意味にどのように反映しているか、現代日本語の例をあげて具体的に説明せよ。なお、例は、「語 (形態素)」のレベルのものと「文」のレベルのものを両方とりあげること。

14. 形容詞の連用形 (～く) について、副詞とする立場がある。これについて自分の考えを述べよ。必要に応じて適切な例を挙げること。

15. 様々な言語を母語とする日本語学習者の中には、有声破裂音と無声破裂音の対立を調音的、聴覚的に混同することがある。このような現象を分析するためには、どのような実験計画を立てればいいか、その具体的な内容について述べよ。

【日本語教育方法論講座の問題】16・17・18

16. 学習ストラテジーのトレーニングは、日本語学習に効果があるという主張と効果がないという主張がある。それぞれの主張の根拠を述べ、それに対する考えを述べよ。

17. 日本語 e-learning 教材を開発する過程には、ニーズの分析、デザイン、開発、実施、導入後の評価が含まれる。それぞれの過程における教師の役割を述べよ。

18. 会話の授業を例にとって、下記の(1)(2)(3)の項目がどのように関連するか説明せよ。

- (1) 学習者が現実の場面・状況において使用する日本語
- (2) 日本語の授業で学習者に指導する内容
- (3) 日本語コースにおいて実施されるテストの内容